[Dance]

Pre-resume

Morimura Seminar

Nao Sato
Hisashi Ogitani
Yuta Komaguchi
Youichi Hayashi
Ayaka Kimura

０．はじめに

今回私達の班は「芸術の設計」の中で取り上げられている「モダンダンス」について研究発表します。

ポップカルチャーに基づいたダンス（ジャズダンス、ブレイクダンス等）の知識はともかくとして、モダンダンスに関する知識量は全員それほど差がないと思います。そこでプレレジュメにおいてはテキストにおいても紹介されていたマース・カニングハムなどが歩んだモダンダンス以降の歴史の概略と、実際に彼／彼女等がどのようなダンスをしていたのかを理解するために、視聴覚資料へのリンクを掲載します。リンクを載せている人物・作品はすべて文献に登場しているものです。各自本発表までに目を通し、どのようなものなのか知っておいてください。

また、本発表においては「モダンダンス」について最初から深く掘り下げて話を進めるのではなく、「モダンダンス」に大きく影響した人物や事柄などの「リンク」—例えばマース・カニングハムとジョン・ケージ、抽象表現主義などを取り上げて、様々な事柄の影響下にあった「モダンダンス」をいくつかの視点から見ることによって、より深く理解していこうと考えています。

１．ダンスの歴史

　モダンダンスの登場まで、ダンスというと現在で言うクラシック・バレエやミュージカルなど、芸術として見られることはなく、上流階級のためのエンターテインメントでしかなかった。芸術とは男性のものであり、舞踊は女性の芸能と見なされていた。
　芸術としてのダンスは20世紀になってから開花し目覚しい発展を遂げていくこととなる。

モダンダンス（20世紀初頭～）

Isadora Duncan　イサドラ･ダンカン（1878-1927・アメリカ）　モダンダンスの祖
Martha Graham　マーサ・グラハム（1894-1991・アメリカ）　ダンカンを継承・開拓
モダンダンスとは、その名のとおりモダニズムという芸術運動の舞踊版である。
彼女達は当時の伝統的な社会体制に抵抗し、ダンスを芸術の域に高めようとした。不自然な姿勢を強要し、自由を束縛している伝統的なダンス（バレエなど）に反発し、自分自身の創作する自由なダンスを考える。「昔の人々は自然の呼び声に応じ、自由に踊っていたはずだ」という考えのもと、身体的解放と自由な表現を目指した。音楽や舞台装置を重視し、表現のインスピレーションの源にもしている。

マース・カニングハムの登場

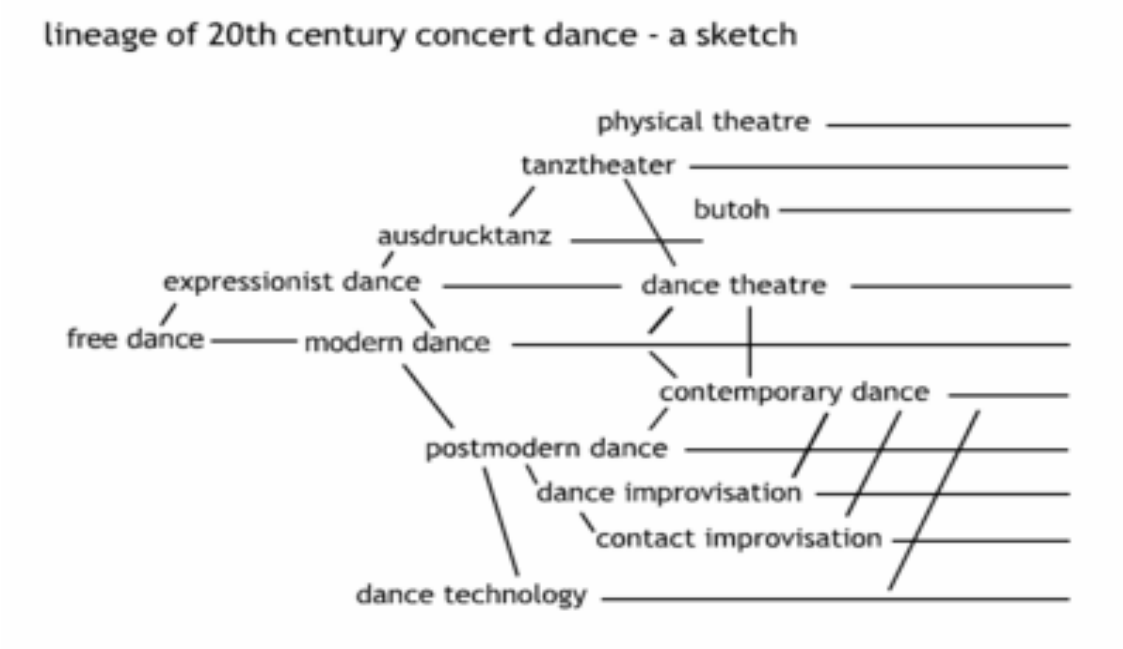
Merce Cunningham（1919～・アメリカ）
ダンサー、振付家。第二次世界大戦後のポスト・モダンダンスの中心的存在である。
もとはグラハムの弟子であったが、のちに彼女とモダンダンスを否定し（1945 年にグラハムの舞踊団を去る）、新しいダンスの領域を開拓してモダンダンスからポスト・モダンダンスへの橋渡しを行う。
彼が行ったことは、
・自然性の否定
・音楽や舞台装置との関わりを排除
・ダンスの構成に偶然性を使用
・不自然な（非人間的な）身体の動きを作り出す
などであった。モダンダンスが20世紀の消費・合理的社会の中で自己の「自然」の感覚を解放しようとしていたのに対して、カニングハムはその「自然」の感覚すら社会によりに作られたものであるとして、それを批判的に捉え舞踊から取り除こうとする方向へ進んでいく。カニングハムはモダンダンスから「表現」を削ぎ落としていった。

ポスト・モダンダンス（1960 年代～）

モダニズムの終焉と共にモダンダンスも終わっていった。モダンダンスの作品性や表現の制約に対する反動として、ポスト・モダンダンスは、日常的な運動の使用を有効なパーフォーマンスアートとして認め、ダンス創作の斬新な方法論を主唱した。
「何でもあり」の時代を経た後、マース･カニングハムの次の世代として活躍したジャドソン・チャーチ派を中心に、多種多様なダンス作品が生み出され、 ポスト・モダンダンスのムーヴメントは急速に発展し、ポストモダニズムのイデオロギーを取り入れていく。
1960 年代から 1970 年代後半まで長続きしたものの、ポスト・モダンダンスが大きく世に出たのは比較的短い期間であったが、その遺産はコンテンポラリー・ダンス（モダニズムとポストモダニズムの混合）の中に生き続けている。

コンテンポラリー・ダンス

現在コンテンポラリー・ダンスといわれている舞踊芸術運動の発祥の地は 1980 年代前半のフランスである。元はマース・カニングハムらがつくりあげた「ポスト・モダンダンス」以降のダンスをさしていたが、日本の暗黒舞踏やストリートダンス、ヌーボーシルク（現代サーカス）、各国のエスニック・ダンス、武術の型、映像やコンピューターなどの機材をつかった実験的パフォーマンスなど、考えうる限りのあらゆるパフォーマンスが取り込まれる状態が現在も進行している。
この現状をもって、定義づけできないことがコンテンポラリー・ダンスの本質であるかのような言説がなされることもあるが、むしろ定義づけが積極的に試みられること自体があまりなく、静観されている。現在行われているダンスのうち「非古典的かつ前衛的で、時代の先端を体現している」と考えられるダンス作品および、ダンステクニックを指す曖昧な概念である。
バレエやモダンダンス、ポスト・モダンダンスなどの舞踊芸術を実践している人々のうち、クラシックな伝統を解体し脱構築を目指しているダンサーやダンス・カンパニーには、「コンテンポラリー・ダンス」を標榜しているケースが多い。



２．視聴覚資料へのリンク集

William Forsythe
http://jp.youtube.com/watch?v=eSvY2OWo5ug

Contact Improvisation
http://jp.youtube.com/watch?v=7p2Tof2y1yQ

Trisha Brown
http://jp.youtube.com/watch?v=g9QTO7VLJis

Rooftop Duet/Chimes study
http://jp.youtube.com/watch?v=eEIoWpN1WWY

Merce Cunningham
http://video.google.com/videoplay?docid=-1882792326450369925&q=genre%3Adance+is%3Afree

Mary Wigman
http://jp.youtube.com/watch?v=Tp-ZO7Yc5oQ